



信じることで生まれる力

今、国民的特撮ヒーローの新たな誕生と戦いを描いた映画「シン・ウルトラマン」が人気を集めています。全国401の映画館で公開され、わずか3日間で64万人の観客を動員し、興行収入は9.9億円を超えました。1966年に初めて放映されて以来、ウルトラマンは100を超える海外の地域で放映されてきた根強い人気の日本を代表するキャラクターです。

さて、皆さんは「仮面ライダー」というキャラクターを知っているでしょうか。怪獣相手に戦う巨大ヒーロー「ウルトラマン」が人気を博していた当時、人間と同じ大きさのヒーローが街の中で怪人と戦ってはたして迫力があるのだろうか、番組制作スタッフは大変心配していたそうです。しかし、いざ番組が始まってみると、ウルトラマンにはない、ジャンプしたりキックしたりといった素早い戦いや、変身ポーズ、オートバイのアクションなどでたちまち大人気となりました。

仮面ライダーや怪人の着ぐるみに入ってアクションを演じていたのは、「大野剣友会」という時代劇などの立ち回り(刀で切り合う戦い)を演じる会社の人たちでした。当時、時代劇の人气が低迷し、仕事が少なくなっていたところに「仮面ライダー」という新しい番組の話があり、大野剣友会の人たちはそれに賭けてみることにしました。

大野剣友会の人たちは、子ども番組だからとばかにすることなく、一生懸命迫力あるアクションを演じました。お互いのパンチやキックが強く当たってケガをすることはしょっちゅう、歯を折ることも珍しくなかったそうです。高いところから飛び降りる場面では、下に大きなマットを敷きます。その上にうまく飛び降りなければなりません。それなのに、仮面ライダーのあの大きな目の部分からは実は外が全く見えないので、目と口の間のわずかなスペースから外界を見るしかありませんでした。怖さのあまり下ばかり見ているのはヒーローのかっこよさが出ないので、よく見えなくてもカンと度胸で飛び降りたそうです。シーンによっては、高い橋の上から川へ飛び込むこともありました。怪人役の人たちのなかには泳げない人もいました。「私は泳げません、どうしましょう?」と問いかけたとき、泳げる先輩が答えました。「大丈夫だ。オレが必ず助けてやる。川に落ちたら力を抜いてじっとしている。」泳げない人はその先輩の言葉を信じ、仮面ライダーに打ちのめされる演技をしたあと、川に飛び込んだそうです。そして約束どおり先輩の人が助けてくれました。このような一生懸命さと互いを信じる力があつたからこそ、ウルトラマンのような巨大ヒーローに負けないような迫力の演技ができたのです。その結果、1971年に始まった仮面ライダーは、100を超えるテレビや映画の人気作品となりました。そして、来年3月には、生誕50周年企画作品「シン・仮面ライダー」が放映される予定です。



来週火曜日、待ちに待った修学旅行に出発します。全校集会の話を覚えているでしょうか。3年生はもちろんのこと、1・2年生も3年生が安心・安全な旅ができるよう力を貸してください。見えないウイルスという敵と戦うためには、皆の力を結集しなければなりません。これからも、生徒だけでなく教職員も感染対策に全力で取り組みます。今こそ互いを信じる力で難局を乗り切ろうではありませんか。